

2029年に向けた 「5つの柱」 (ビジョン実現の基本方針)

本ビジョンでは、コンセプトである「農ある暮らしがつなぐ湖都のきずな」を実現するために、次の5つの柱をもとにさまざまな取り組みを進めます。

とりわけ、担い手の減少は喫緊の課題であるため、**方針1**について重点的に取り組んでいきます。

方針1 人をつくり、 仲間をつくる

育てよう！ 次代を拓く担い手の輪

大津市は専業農家でなくても多様な生産者が農業を営むことができるまちです。

市内のたくさんの田んぼや畑がこの先も耕し続けられるよう、多様な担い手の育成に努めます。専業農家・兼業農家の育成をはじめ、新規就農者の育成と確保、週末農業希望者や農業法人の誘致といった「人づくり」にも取り組みます。

また、農業者が互いに助け合えるような組織化やネットワーク化を進め、「仲間づくり」を推進します。



方針2 土をつくり、 畑をたがやす

守ろう！ 実り豊かな農村空間

市内では耕作放棄地の拡大や鳥獣害が目立ち、田んぼや畑の生産基盤の維持は重要な課題です。

大津市では農地集積を進めつつも、既存の耕地や設備の適切な管理・更新に努めることで生産基盤の維持を目指します。併せて、鳥獣害対策への取り組みを進めます。





方針3

種をまき、 育てる

探そう! さらなる農の可能性

大津市を代表する農産物を選定し、生産の拡大に努めます。同時に、安全・安心な農産物を育てる栽培方法の指導を行い、品質向上による市場での差別化を目指します。

また、市内の大学等との連携の強化など農商工連携や6次産業化に積極的に取り組み、新しい市場の開拓にも果敢にチャレンジします。



方針4

収穫し、 お届けする

広げよう! 農の恵みをどこまでも

大津市農業の振興にむけて、農産物マーケティングを強化します。

卸売市場への安定供給はもちろんのこと、直売所を通じた地産地消型の農産物販売を強化し、市民が大津市産の農産物をもっと購入できる機会を増やします。併せて、大津市農業のプロモーションも推進します。

方針5

恵みを味わい、 農に親しむ

楽しもう! 身近な暮らしにあふれる農

田んぼや畑が近接する強みを活かして、生産者と大津市民の交流の機会を増やします。

市民にとって農業がより身近になるよう、農業イベントへの支援や学校教育を通じた農業交流の強化、市民農園等の活用を推進します。

